

校長通信 調和

発行
校長 寺島克彦
〒384-0023
小諸市東雲4-1-1
TEL 0267-22-0216

題字 渡邊虚舟

全ての高校生にエール！

本校音楽科3年生によるリモート演奏「栄冠は君に輝く」YouTubeで配信中

高体連の大会やコンクール、演奏会が中止となり、悔しい思いをした同学年の高校生達へ、また、コロナ禍により、夢に描いた高校生活を送ることが出来ない全ての高校生に向け、エールの気持ちを込めて演奏した動画が配信中です。

小諸高校からの音楽によるメッセージです。

「今できることを全力で！」
「笑顔を忘れずみんなで乗り越えよう！」

KOMOKO チャンネル

https://www.youtube.com/watch?v=y9DW_HfQPUY



校内では社行会に代えて運動部連絡会でエール！



高体連の大会が中止となる中、競技によっては各地区の代替大会が開催されました。

大会参加に先立ち、ようやく新入生の入部も得て、活動が始まった本校の運動部員が一堂に会しての連絡会が行われ、応援委員によるエールが送られました。感染防止ソーシャルディスタンスでの整列。整然とした中にも、それぞれの運動部活動のこれからの活躍が期待される意気込みを感じた集会でした。

頑張った部活動！ 3年生ありがとう！

代替え大会があった活動では、それぞれに全力を出し切って戦ってくれました。また、開催が叶わなかった部活動では、校内での紅白戦や、演武の披露をし、三年間の活動を締めくくりました。

厳しい状況の中、これまでの伝統の上に、さらに、部員全員で発奮と活動できる、理想の部活動を創り上げた3年生の努力に感謝！

皆さんの思いは、確実に後輩に引き継がれることでしょう！



(男子バレーボール部 3年生ラストマッチ)

小諸高 3年生は主将とマネジャーのみ



バッターボックスで構える塚原主将 選手に飲み物を渡す土屋さん

夏の高校野球大会が迫ってきた。小諸高野球部(小諸市)の唯一の選手は、主将とマネジャーのみ。2人チームを引っ張り、勝利を収めた。

2人でけん引「夏」1勝

夏の高校野球大会が迫ってきた。試合、練習、練習、練習。選手は、主将とマネジャーのみ。2人チームを引っ張り、勝利を収めた。

全カ夏 2020 7カッ

夏の高校野球大会が迫ってきた。試合、練習、練習、練習。選手は、主将とマネジャーのみ。2人チームを引っ張り、勝利を収めた。

コロナ禍対策、放送による生徒総会

3密を避けるため、生徒会役員が工夫を凝らし、校内放送とGoogleフォームを使って生徒総会が行われました。放送機材の不具合で、各委員会・委員長による活動報告・計画の説明が途切れてしまう場面もありましたが、スマホを使っての採決はスムーズに回答、集計が出来て、全ての議案が承認されました。

With コロナの生徒会の在り方として、良い実践の機会でした。役員皆さんの皆さんお疲れ様でした。



廊下で待機する委員長と放送室の土屋生徒会長と中村副会長。



1.2年生は教室で3年生は体育館にてスマホで採決。

第44回全国高等学校総合文化祭・2020こうち総文

WEB SOUBUN 開催中！ (7月31日～10月31日)

大会テーマ: 蒼海の知 緑樹の感 陽光の志 いま、南国土佐に集うとき

コロナ禍の中、青い空と山々の緑に囲まれた高知に集うことは叶いませんでしたが、新しい形での全国の高校生による総合文化祭が開催されています。信州総文から2年、さらにパワーアップした全国の高校生のすっごい作品を、最高のパフォーマンスを見てみよう！

<https://www.websoubun.com/>

校内放送による一学期終業式(8月6日) 校長講話より

さて、コロナ禍の中、世界中が、経験のない対応を迫られる中であっては仕方のないことではありましたが、皆さんも、また皆さんの家族も、感染防止のため、ここまで多くの努力と犠牲と我慢を続けてきました。

残念ながらコロナ禍の収束には至っていませんが、これまでの努力をお互いに労うと同時に、日本国内外の医療従事者を含むコロナ禍対策の第一線で奮闘されている多くの方々に感謝しましょう。そして、厳しい状況ですが、もうしばらく皆で頑張りましょう。

また、今年も、豪雨による大きな災害が発生しました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、改めて皆さんで、防災や命を守る行動についての意識を高めましょう。

さて、4月の放送による始業式では「小諸高校生に身に着けてほしい3つの力」について話しました。

「基礎的な力を確実につけてほしい」「言われたことだけをやるのではなく、自ら考え、自ら行動する力をつけてほしい」「夢中になって取り組めるもの見つけて、追求してほしい」ということでした。

6月末の信濃毎日新聞の中高生のコーナー「ヤンジャ」のインタビュー記事で、本校の生徒2名が、コロナ禍で考えたことを話してくれています。

私が記事を読んで気づかされたことは、「休校によって自分自身についてゆっくり考える時間ができました」の言葉です。きっとコロナ禍の中にある、多くの高校生がそう感じたのではないのでしょうか。

「日本の学校の先生は忙しい」と言われています。それはイコール「日本の学校の生徒はみんな、忙しい」ということ。コロナ禍以前の学校は忙しすぎて、私たちから、生徒も先生方からも「考える時間」という、最も大切な時間を奪っていたのではなかったのだろうか、と思いました。

この時期、3年生と進路のことで話す機会が多くあります。みんな悩む時期です。また、一緒に考えたいけど、どうにもしてあげられないと思うことも多くあります。

「考える」という作業には「時間」と「努力」と「勇気」が必要です。思想家の内田樹氏は「論理的にもの考えるということは、命がけのプロセス」と言っています。

「空想」するだけなら、こんな楽で、楽しいことはありませんが、「考える」ことは「根拠」が必要ですし、「根拠」を見つけるためには「行動する努力」つまり、多くの情報を得ることや行動すること、そしてそのことにかかる時間が不可欠です。

そして、考えた結果、自分には大変不利な、自分の理想とは真逆の結論が出るかもしれませんし、結論まで辿り着かなくとも、大きな問題や乗り越えなければならない壁に直面することは多くあると思います。だから「勇気」が必要なのです。

この夏、代替え大会や部活動の最後を締めくくる三年生の活躍を見る機会が多くありました。部活が大好きで、仲間を大切に、精一杯頑張る小諸高校生の姿を沢山見ました。

そんな自慢の小諸高校生は、部活動や生徒会活動。或いは、教科の学習や専門科の学習で培った、「考える勇気」を持っているはずです。

先生方も皆さんが本気で考えるなら、いくらでも資料も方法も提供してさせていただきます。

明日から短い夏休みですが、時間があっても無くても、恐れず、逃げないで考え、そして行動しましょう。

小諸高校生の益々の健闘を祈っています。